

令和7年度(2025年度)とうきょう すくわくプログラム活動報告書(八王子市)

施設名	幼保連携型認定こども園まごころ保育園
担当者名	長田 大/キリン組担任

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然（虫、川の生き物）

<テーマの設定理由>

お散歩コースに探索できる小川があることや、カブトムシを代々受け継いでいる文化が円の特徴でもあり、子供たちの知的好奇心のスイッチを入れるきっかけとなっている。

2. 活動スケジュール

4～6月 腐葉土の交換（ウンチと土をどうやってわける？ ふるいを使って分別）
6、7月 蛹の観察（蛹って生きているの？ 人工蛹室を作って観察）
5月～9月 川の生き物探しと飼育（川にはどんな生き物がいるのかな？）
8月～ カブトムシのお世話とふれあい（どうやって動く？ どうやってたべる？）
～10月 サヨナラカブトムシ（命って何だろう？ 生き物の死と新しい命の連鎖）
12月～3月 自分たちの思い出を劇にしてみよう

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

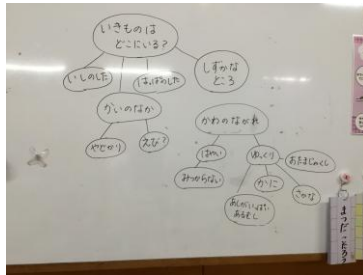
カブトムシの土 餌 虫かご 水槽 魚のえさ 段ボール 工作用紙 絵具

＜活動の内容＞

できるだけ自然に近い環境とはどのようなものか調べ再現して飼育した
調べ学習からカブトムシだけではなくクワガタの存在にも気づき興味の幅を広げてい

飼育ケースを観察し「ウンチがいっぱいだからそろそろ土を変えよう」と子供たち自身が気付く土を変える。土から一匹ずつでてくる幼虫を数えその多さに驚きと嬉しさの声をあげていた。幼虫から蛹、成虫という変化を日々目の当たりにすることで驚きや興味が深まり、積極的にお世話をする姿が見られた。

年度末の創作劇では「自分たちがカブトムシ、クワガタになりたい！」と自身の経験とファンタジーの世界を繋げていった。



＜振り返りによって得た先生の気づき＞

はじめは興味が薄かった子も飼育や観察を続けることで虫や川の生き物に興味ができてきた。お世話を通じて身近にも命があるということに気づくきっかけとなった。このような単発の活動ではなく、継続して行う活動が子供たちの虫や生き物への興味や理解を積み上げていくことを改めて感じた。